

大分県立看護科学大学 学生交流プログラム 2012

韓国 ソウル 滞在記 (2012年8月19～26日)



8月19～26日の間、私たちはソウル大学を訪問しました！
ソウル大学との交流の様子を写真と文章で紹介していきたいと思います！

滞在2日目 (8月20日 (月))

1日目の午前中は、ソウル大学看護学部によるウェルカムセレモニーが開かれました。Sun-Mi Chae先生から、韓国の看護の歴史について、また看護教育システムについて、ソウル大学看護学部での看護教育システムについてのお話をして頂きました。

看護学部の教育プログラムには、学内シミュレーションのプログラムがあります。学内ツアー

で、看護技術の実習室の見学をしました。大学院生のプログラムには、7つの専門領域、すなわち成人保健看護学、母子保健看護学、小児看護学、精神看護学、地域保健看護学、看護管理学、看護情報学があるということでした。

その後、Sun-Mi Chae先生とソウル大学の学生によるソウル大学看護学部の学内ツアーが行われました。講義室、100年記念で設立された看護科学博物館 (Museum of Nursing Science) や看護実習室を見学しました。

大分県立看護科学大学と大部分の設備は同じでしたが、技術練習に使用している人形モデルの



韓国は大陸で他国と繋がっているため、欧米の患者と接する機会は日本より多いようです。そのため、韓国の人形モデルは日本のモデルより大きいのではないかと感じました。また、SNUには学生が自由に練習することができる技術実習室がありました。そこでは、吸引・採血などの看護手技の練習が出来るモデルが設置されていました。大分県立看護科学大学では、技術練習をする機会や技術チェックテストなどは実施されていますが、いつでも自由に練習しやすい環境ではないと思います。ソウル大学の技術実習室のように、学生がいつでも自由に技術練習を行えるような環境をつくるのが、技術の実践力の向上につながるのではないかと考えました。

昼食の時間は、ウェルカムパーティーをソウル大学看護学部の皆さんが開催してくれました。ウェルカムパーティーでは、韓国の料理（バイキング式）を食べながら、ソウル大学の学生と会話をし、交流を深めることが出来ました。

午後からは、ソウル大学の本学キャンパスに行き、ソウル大学を紹介するボランティアサークルの学生からソウル大学の歴史や教育についての説明を受けました。

本学キャンパスはとても広く、端から端まで行くのにバスや原動機付き自転車を使う学生が多いそうです。この日は雨が降り、校内見学が十分できなくて残念でしたが、伝統を感じました。

(担当 4年 S)



滞在 3 日目 (8 月 21 日 (火))

午前の Choi 先生の講義のテーマは「Concepts in transcultural nursing」です。「transcultural nursing」という言葉は、異文化の背景を持つ人々に対する看護を意味し、講義の内容は私にとっては初めてで大変興味深いものでした。今、韓国では国外からの移住者が急速に増加しており、2050年には10人に1人が在韓外国人になると言われているそうです。日本も同様ですが、



外国人にとって保健医療福祉サービスへのアクセスは、言葉の壁や差別などのために困難なものとなっています。その問題の解決のために「Acculturation (異文化に合わせること)」という言

葉をキーワードにし、異文化交流スキル（言葉や異文化の習慣をよく知ることなど）などの文化的なコンピテンシー（competency）開発に向けた、様々な取り組みを教わることができました。

ちなみに講義はすべて英語で行われました。SNUでもChoi先生の講義は初回のオリエンテーション以外は英語で行われているそうです。このような姿勢が「transcultural nursing」の第一歩にもなることは間違いなさそうです。

午後はまずソウル市内ソンパ区の保健所を訪問しました。日本の市町村や保健所と同様にソンパ区の医療保健衛生管理や福祉事業、ヘルスポロモーション事業などが行われていました。その中で大変興味深かったものは、「U-Health」というシステムで、脈拍や血圧の測定機器（デバイス）を使って、いつでもどこでも対象者の健康状態が医療機関に伝達されるというもので



す。緊急時に即時対応ができるというメリットと共に、1人で大勢の区民の健康管理を担う保健師の負担を軽減できるということから積極的に導入されていました。このようなデバイスやシステムの開発なども看護職者が率先して産業に働きかけることの重要性を改めて強く感じました。次にアサン病院を訪問しました。ここは総ベッド数が2600を超える超巨大病院で、建物も非常に綺麗ですが、その巨大さに引けを取らない実績を持つ病院でした。看護部は、患者が訪れたい病院、看護師が働きたい病院、学生が一度は働きたい病院を目指しており、誰もが幸せになる病院づくりに向けた取り組みを知ることができました。

（担当 大学院生 M）

滞在4日目（8月22日（水））

Sun-Mi Chae先生は小児看護学准教授です。韓国における子どもの保健や教育の実情と、「育児支援の理論”Emotion Coaching”」についての講義でした。実際に韓国で行われた実態調査や医療統計を用いて、講義が進められて「この考え方は日本にはない、韓国特有の考え方だな」と思うことや「この風習やしつけの仕方は日本と同じだな」と思うことがありました。また、私はこの講義で初めてエモーションコーチングとは何かを知りました。レクチャーの中では、エモーションコー



チングとは大人が子どもと関わりをもつときに、子どもの話をじっくり聞いて、その感情を認め、問題解決の方法と一緒に考えていくというものでした。講義の中では、エモーションコーチングは子どもとの関わり方の方法として紹介されましたが、現在は夫婦や恋人関係など大人同士でのコミュニケーションや対人関係を築いていく上でも、十分に活用できるのではないかと感じました。実際に Sun-Mi Chae 先生の子育てで息子さんを事例にして、おもちゃを欲しがる子どもをどのように関わればよいかを関連づけて話して下さって、楽しみながら学びを深めることができました。

Nam-Ju Lee 先生は医療安全（リスク管理）について、講義をしてくださいました。医療は人の命を救うためのものですが、医療ミスによって多くの命が奪われています。医療安全の理論とともに、臨床で医療ミスが発生するには様々な背景があることを説明されました。医療者が医療ミスを防ぐには、医療職者の視点からのアプロ



ーチと、医療システムの視点からのアプローチがあり、この2つの視点が重要であることがわかりました。講義の途中で、2つのグループに分かれて、グループディスカッション形式で事例検討を行いました。新人看護師の事例でした。学生としての意見、実際に医療現場で働かれた方の意見が出され活発なディスカッションをすることができました。このグループディスカッションを通して、韓国では、臨床経験のない学生でも医療ミスやリスク管理について講義を受け、高い意識を育成しているのだと思いました。医療ミスを減らしていくには学生の時から、医療安全やリスク管理についての知識を学び、それを身につけ、リスク管理の重要性を理解し実践できる能力を養っていかねばならないと感じました。

(担当 4年 I)

滞在 5 日目 (8 月 23 日 (木))

The member of exchange program departed from dormitory to Green Hill Nursing Home by bus on 8.30am. After about 1 hour, we received Green Hill Nursing Home. At the following paragraph, It will explain the description of that place. Green Hill Nursing Home was established in 2000 to provide an



extensive elder people. The philosophy of this place is respect for human dignity with warm and homely atmosphere. The aim of this Nursing Home is to create a sense of home and to find better services to improve the quality of life for elderly people and help people to continue their lives in comfort until the end. Nowadays, this institution is composed of Nursing Home, Home Care, Day Care and Group Home.

1. Nursing Home is a long-term care institution by national long-term care insurance policy

- a. Basic Care : required to maintain a resident's activities of daily living
- b. Nursing Care : treatments are did by registered nurses
- c. Medical Treatment : to order medication
- d. Social Worker : They assist the residents in maintaining a quality of life within the faculty
- e. Rehabilitation Treatment : there is also any rehabilitation treatment which be supporter
- f. Performance Treatment
- g. Mental Activity Support

2. Nursing Home care

Nursing home care established in July 2008. It is register as a Long Term Care institution by the national long term care insurance. Capacity of patients is 50 patients. There are any 27 staff members.

3. Green Hills Day Care Center

This institution established in January 2009. Criteria the patients who can join this activities is the elderly mentally and psychically feeble, living in Gwangju City including CVA and Fracture High Risk

4. Green Hills Group Home

This institution established in March 2009. There are any 2 units of persons per unit and 8 staffs. The category of this place is charged assist living for the uninsured elderly people

The most interesting one of this place, the owner of the nursing home is a nurse, namely Mrs. Cho Hye Suk, RN. She adopted the format of nursing home from the UK. After, she graduated from nursing college, she did not work as a nurse because she had to take care her children. She started to work in one of Nursing home at the UK, after her children growth. She began to



perform the Nursing home since 13 years ago.

After lunch at The Green Hills, all the exchange programs participants went to Changdoek Palace (UNESCO World Heritage). On 15.30, 2 graduates student (Shanti and Makino) went to Yeon-gon Campus to attend the meeting with SNU Professor (Prof Myoung-Ae Choe and Dr. Heeseung Choi) and Graduate Students. The meeting finished at 17.00, than we had free time to go to Myeong Dong.

(担当 大学院生 S)

滞在 6 日目 (8 月 24 日 (金))

Kung-Sook Bang 先生の講義では『Transcultural nursing in maternal child health 国際看護の母子健康分野』について話していただきました。韓国は現在ベトナム、中国、インドネシア、日本など様々な移民が増加しています。韓国での国際結婚の数は 1990 年代と比較すると約 10 倍に増えており、全体の約 10%を占めています。そのため、外国人家族の育児支援に向けて様々な文化の違いを考慮しながら、韓国での生活が円滑に送られるように韓国文化や育児についての教育や居宅訪問、インタビュー調査を行っています。このような韓国の近代化・国際化に伴い起こってくる健康問題を知ることができました。



午後からはサンシン女子大学で韓国の伝統的な服ハンボックを着て、韓国の茶道体験をしました。韓国の茶道にも日本と同様に様々な流派があります。茶菓子も日本のものとよく似ており、羊羹や水羊羹のようなものがあり見た目も楽しめるように作られていました。礼儀作法では基本姿勢や礼の仕方など男女により異なり、日本との違いを感じながら韓国の伝統文化を体験しながら学ぶことができました。



(担当 3年 K)

フォトギャラリー

韓国式のお茶会で出されたお菓子です。
味は、きなこ砂糖を混ぜた駄菓子のような
味でした♪



韓国の伝統的な衣装、ハンボックを着て
お茶を淹れました。味は日本の緑茶とよ
く似ていてとてもおいしかったです。

